

'S WONDERFUL

グランシップで

JAZZ!

JAZZ!

JAZZ!

ジャズ・ライヴ!

IN GRANSHIP



What is jazz?

「ジャズとは何？」サッチモは答える。「今わからないのなら、あんたには一生わからないだろうね」ジャズは考えるものじゃない。そのとき“わかる”もののなのだ。
“Baby if you don't already know, you're never gonna know the answer”



あるとき、一人の男がサッチモに聞いた。「ジャズとは何？」すると彼は言う。
「今わからないのなら、あんたには一生わからないだろうね——これぞお宝級の名言。
ジャズファンの間ではあまりに有名な一言である。ジャズとは何か。その答えはとも
かく、ジャズのルーツは、19世紀末から20世紀初頭にかけてのニューオリンズ。猿が道具を手
にして人間へと進化を遂げたように、南北戦争が終わり、軍楽隊の楽器が人々の手に渡ったと
き、それは生まれた。当時は「ジャズ・ミュージック」と呼ばれ、ニューオリンズのそれと区別す
るためにシカゴでは「ジャズ」と呼ぶようになり、やがてそれが一般名詞化していったといわ
れている。たった1世紀余りの歴史。なのにジャズはそれについて簡単に言い表すことを許して
はくれない。(だからといって幾夜費やしても語り尽くせるものでもないけれど。)百の蘊蓄よ
り二つの演奏。ジャズは「考える」もの、「知る」ものではなく、そのとき「わかる」もののだ。
マイルス・デイビスは言った。「そこにあるものを演奏するんじゃない！そこにないものをプレ
イするんだ」と。そして、マッコイ・タイナーは「生活とジャズは全くの同義語さ。生きている
ことをそのまま音にしているんだ」とピアノに向かった。真実と含蓄と皮肉に満ちたジャズ。
ジャイアントたちのこれらの言葉を手がかりにライブに出掛ける。オフビートの音楽に身体が
揺れ、五感が揺れ、魂が揺さぶられて、やがてふと気づくのだ。あ、これがジャズだ！と。



The Golden Jazz Series
Granship JAZZ LIVE
vol.I~XVI



Terumasa Hino



のは「(G10号より)」

「昔はステージで燃え尽きたい
 と思ってた。でも、向こうの人
 はリラックスして演奏してる。
 なにしろジャズは日常だから。
 だから、アメリカに行つてからた
 ね。ラクにやれるようになった」

Nothing
 is better than
 LIVE!

ライブでなくちゃ。

ジャズの最大の魅力。それはインプ
 ロビゼーションである。インプロビゼー
 ションとは、アドリブ、即興による演奏
 のことで、これについてソプラノ・サク
 スで知られるステイブ・レイシーが実
 に巧いことを言っているので引用したい。
 「15秒間の演奏における作曲と即興演
 奏の違い。それはその15秒間で何をし
 ようかと始終考え、出てきたものが作
 曲。一方、即興演奏とはその15秒間だけ
 で考え、演奏したものなんだ」
 つまりジャズのライブは、一期一会の
 ものだ。その日のジャズには、その日、
 そのときにしか出会えない。たとえ譜
 面に起こしても、音として記録しても、
 今日の音を明日同じようになぞること
 とはできない。だからこそ、あ
 の人の、あの日の、あの場所の、
 あの演奏“として伝説になる。
 だから、ジャズを楽しむなら、
 ライブがいい。そのときの空気、気
 分から生まれた音楽を共有する楽
 しみは、ライブだけのものだから。

そして、ここに「二つのライブ・シリー
 ズがある。一人でも多くの人にジャズ
 の楽しみ、ライブの感動を」と、グ
 ランシップが開館以来、年4回の
 ペースで開催している『グランシッ
 プ・ジャズ・ライブ』である。
 女性アーティストをフィーチャーした
 1年目に始まり、その顔ぶれはご覧の
 とおり(右ページ参照)。これまで登場
 したミュージシャンは16組を数える。
 ソロからビッグバンドまで、大御所、新
 星織り交ぜての多彩ぶりから、このラ
 イブには毎回欠かさず足を運ぶとい
 う皆勤賞諸氏もいるほど。ライブハウ
 スとまではいかないけれど、それほど
 大きくない空間で、それも手頃なブラ
 イス設定で楽しめる機会というのは、
 実際のところ、そう多くはない。また、
 ワンドリンク付き、というのも気が利
 いている。なにしろジャズとお酒は、旧
 知の友。ほどよいアルコールで五感の緊
 張を解いて、いざ、一期一会のライブへ。
 それもまたジャズの流儀なのだ。



Satoru
 Shionoya

「サンタナにしても、矢井田瞳に
 しても、いいなあと思う人には、
 音にリアリティがある。それはいい
 ミュージシャンか、そうでないか。
 それぐらいはつきりしたことだと
 思ってるんだけど」(G13号より)



Kazumi
 Watanabe

「その場で瞬間的に生まれてきた
 音をつかむことにたぶん僕は向い
 ている。イマジネーションの中で
 聞こえてきた音をなるべく
 忠実に楽器を通してつか
 まえて出していく、とい
 うことだね」(G17号より)

ある日、あるジャズ・ライブで。 The shining scenes at one Jazz Live

グランシップ・ジャズ・ライブⅦ
渡辺香津美 & 鈴木大介 ギターデュオライブより
[2003.2.28./会議ホール・風]



pm8:05

ライブ第二部。



pm6:54



pm7:00

いよいよライブの始まり！



pm5:28

JR東静岡駅を降りたら、
グランシップは目の前に…。



pm5:43

ベストシートを
確保するなら、
早めの入場がポイント！



pm6:00

開場を待つ、ホールへ。



ドリンクチケットを
受け取り…

pm6:14

ちょっとした軽食も。



pm9:08

Jazz Live is over.



pm7:38

会場はすっかりいいムードに。



pm7:54

休憩タイム。再びドリンクなど…。



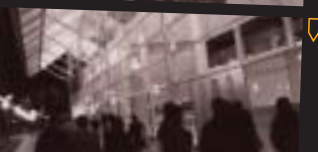
pm9:14

憧れの出演者のサイン会



pm9:28

それぞれの興
グランシップを



チケット代にはワン・ドリンクが含まれているので、開演前や休憩時間にホワイエどうぞ。 ソフトドリンク ¥200 アルコール類 ¥300

今年の顔ぶれに注目。

Longing
for the next!

チケット発売中

ジャズ・ライブ 6/13[㊞]
中村健吾クインテット

ソウルフルジャズデイズ

PM6:00開場

PM7:00開演

6階交流ホール

全席自由4,300円

〈1ドリンク付・税込〉

スイングジャーナル誌の人気投票では、ベース部門で2年連続第1位、コンポーザー・アレンジャー部門でも第10位を獲得するなど、人気・実力ともにNo.1ベーシスト中村健吾が登場。パークリー音大卒業後、NYに拠点を移し、これまでにウィントン・マルサリス、ベニー・ゴルソンなど名だたるアーティストと共演。本場を魅了したソウルフルなジャズが聴ける。

【出演】中村健吾 (b)、野本晴美 (pf)、高橋徹 (ds)、池田篤 (as)、岡崎正典 (ts)



興味深い。6月には、当ライブのメインとしては初めてのベーシストとなる中村健吾が登場。'97年にウィントン・マルサリスの

迎えたグランシップのジャズ・ライブは、またあるのだ。そういう意味から見ても、5年目を迎えたグランシップのジャズ・ライブは、

歌えば、国歌もデイズニーのナンバーもジャズになるし、シャンソンやクラシックからジャズの名曲は生まれている。それにジャズは、決してゴールデン・エイジといわれるジャズの黄金期を創った巨人たちだけのものでもない。今という時代が生んだ、新しいジャズもまたあるのだ。

ジャズ・ライブ 10/16[㊞]
谷川賢作スペシャルユニット

ラジオドラマや舞台

音楽の作・編曲を

手がけ、市川崑監

督作品での音楽で

も知られる作・編曲

家にして才能あふ

れるピアニスト、谷川賢作。初秋の夜、谷川ならではのジャズ・ワールドへ。



©photo:清水英治

ジャズ・ライブ 12/12[㊞]
塩谷哲トリオ

ジャズ・ライブ 2004.2/26[㊞]
スウィングバトル

北村英治カルテット+ヴァイヴ

原信夫とシャープス&フラッツ

長田葉子



静岡県文化財団 ジャズライブ担当 前田貴美子 (左)、松浦悦子 ビギナーの方にこそ、気軽にジャズを。

「グランシップのジャズ・ライブは、若手から往年のアーティストまで、多彩な顔ぶれで年4回。ステージと一体感のある比較的小さな会場で、気取らずに楽しめるのが特徴です。とくに20代の女性や学生さん、ビギナーの方々に気軽に楽しんでいただけたらと思いますね」(前田)

に富んだライブを年4回も体験すれば、いずれはジャズ通の仲間入り。演前に、あるいはブレイクに、バーボンなど片手にいつの間にかジャズの話に夢中になっていたりして...。誰でも気軽に楽しめるジャズ。まさしくそれがグランシップのジャズ・ライブだ。

ベーシストとしてクリントン前大統領主催のプレジデントサミットで演奏したという逸材だ。そして、9月に谷川賢作、12月には塩谷哲がお目見え。前者は昨年11月の『連詩の会』で、後者は昨年3月のジャズ・ライブと10月の『源氏物語』の舞台で好評を博し、再訪を熱望されていたの登場だ。さらに来年2月に予定されている往年のビッグバンドの揃いぶみも実に楽しみなどころ。ビギナーだって、これだけバラエティ



ライブの前にちょっとお腹に入れたいな、という方のために軽食も用意。 ¥350~(メニューに若干の変更あり)

狂

笑いの芸術、でござる。

言



台詞の最後は、能が文語調の「……候」であるのに対し、狂言では「……ござる」という口語調。この狂言独特の「ござる」という言葉は、本来は侍言葉であり、出身地の違う侍同士が会話をスムーズに運ぶため、全国の共通語として使い、円滑化をはかったものだといわれる。

笑いを忘れた、病める現代よ。 日本最古の喜劇はいかが、かな？

最近、「笑い」について、科学的な解明がいろいろすすんでいると聞く。笑うことは、脳を刺激して自律神経にいい影響を与えとか、免疫細胞の働きを高めるとか。さらには腹筋など身体の筋肉を使い、カロリーも消費することからダイエットに効果的であるとか。

そもそも心身が健康でなければ、なかなか笑えない。狂言自殺、狂言強盗などというものに走るのは、どこか健全でないからだ。ちなみにこの場合の「狂言」とは、人を欺くために仕組むたくらみやお芝居をいい、一般には

戯れ言や滑稽な話、作り事という意味として使われる。そして、そのもとは仏の説いた「実話」に対して、道理に外れ、巧みな言葉で飾り人を楽しませる仏教語「狂言綺語」に由来するともいわれている。

さて、日本の古典芸能の一つである「狂言」は、十三世紀末に生まれた庶民喜劇で、十四世紀の能楽大成期に能の一座に取り込まれ、能楽とともに古典演劇として完成した。幽玄美を主体とする歌舞劇である能に対し、狂言は笑いが主体の台詞劇であるのが特徴だ。

狂言の登場人物は、能のように貴族や歴

史上の人物ではなく、大名や太郎冠者、山伏、田舎者など親しみやすいキャラクターとして現れる。

また、その台詞は、中世の口語体、あるいは室町から江戸時代の庶民の生活語だともいわれるが、状況を表す擬音には、狂言独特のものがある。それは例えば、酒をたつぷり注ぐときは「ドブドブ」、空に近くなれば「ピシヨピシヨ」、戸を開けるときは「グワラグワラ」、掛軸を破るときは「ザラリザラリ」という具合。活字にするとどこかピント外れな感じもするが、これが舞台となれば見事に決まる。狂言ならではの洗練された巧みな技の一つなのである。

能の大成者である世阿弥は、狂言について「狂言とは、必ず人の笑ひどめくこと。俗なる風体なるべし。笑みの内に楽しみを含むといふ。この心に和合して見所人（観客）の笑みをなし、興を催はさば、面白く、幽玄の上階の狂言なるべし」と『修道書』に記している。すなわち狂言は、「笑い」が命。身近な笑いをふんだんに、日常的なテーマを日常的な話し言葉で演じる狂言には、難しい講釈は必要ない。観客はただ劇場に座って、ひたすら楽しみ笑えばいいのである。



空吹（うそふき）



武悪（ぶあく）



賢徳（けんとく）

現実社会の人々が登場する狂言では、素顔（直面=ひためん）で舞台に立つのが一般的。そのため、面の種類は少なく、神や鬼、精霊、老人、動物など二十種類ほど。





ご記憶の方も多いと思うが、万之丞氏といえば、ちょうど一年前の春、『マスクロードプロジェクト〜真伎楽〜』でグランシップに登場。氏は自らの解説で公演を盛り上げ、観客たちはステージとともに楽しいトークも堪能した。

野村万之丞プロフィール

300年の歴史を持つ、加賀前田藩お抱えの狂言、野村万蔵家直系の長男。祖父六世、父七世万蔵（ともに人間国宝）の薫陶を受け、五世万之丞を襲名。八代目当主となる。狂言師としてはもちろん、演出、制作、研究、執筆と多岐にわたり、総合芸術家として活躍中。長野パラリンピック開会式、広島ねりんピック開会式等の演出プロデュース、NHK大河ドラマ「秀吉」「利家とまつ」などの芸能考証、また、京都造形芸術大学専任教授など。近年ではアジアの芸能のルーツである伎楽を「真伎楽」として復活させ、シルクロードを逆流する「マスクロードプロジェクト」を敢行。国内をはじめ韓国で上演、高い評価を受ける。昨年4月グランシップでも上演。



『萬狂言』がおくる狂言エンターテインメント、『萬狂言』がこの春、グランシップに！

最近はおもつぱら総合芸術家としてその活躍が知られる野村万之丞氏は、ご存知の通り、約三〇〇年続く狂言の名家、和泉流野村万蔵家の八代目当主である。その氏は言う。

「能は仮面を二つの特徴として謡と舞と仮面というものをどどん増幅させていったけれど、狂言では仮面はワン・オブ・ゼム。顔もあれ

ば、仮面もあるし、音楽もあるという、ヒューマニティー・シアター＝人間劇として成長していったんだね」

狂言には、中世の庶民の生活がいきいきと映し出されている。テーマやストーリー、そこに含まれる風刺の意味などは人間性にあふれ、それがたとえ約六〇〇年前、我々の祖先が初めて創作した喜劇であっても、ある意味で狂言は常に「現代劇」である。

現行曲は、およそ二五〇番。ほとんどが作者不詳であるというの、いかにも庶民の暮らしに根ざした芸能らしい。そして、これらの狂言を野村万蔵家が新しい方式で見直し編集した

のが『萬狂言』である。

『萬狂言』は、現在、年四回の本公演のほか、全国で普及公演が行われており、そうした普及公演の一つとして、この春、グランシップによりやくお目見えと相成った。

第一部では、『萬はなし』として、氏ならではの魅力たっぷりのトークを、第二部では、新作を含めて約三〇〇番あるという曲目から、ストーリーが明快で万民共通の笑いを描いた二番『仏師』『子ほめ』（各あらすじは左ページ参照）を上演。『仏師』は、今で言うベテラン師であるところのすっぱ（用語解説参照）と田舎者、二人による舞台で、すっぱが面をつけ、仏像になりますます様子がなんとも可笑しい。一方、『子ほめ』は、万之丞氏が落語とのコラボレーションにより創作した新たな落語狂言の二つ。男、何某、タケの三人が登場し、何やら滑稽なやりとりが繰り広げられる。

狂言は、笑いの芸術、笑いの演劇といわれる。そして、福笑いという言葉があるように、日本には笑い＝招福という考え方があった。すなわち「笑い」について医学的・科学的に説明がなされるずっと前から、祖先たちは今目的な答えをその感覚のうちに見出していたのである。

なかなかな

人を動かすだけでなく、その芯を大事に。



立川 志の輔（噺家）

1月19日、中ホール・大地にて開催の「しずおか寄席」に出演。

今は日本中どこでも同じテレビ番組が見られて、同じ情報が流れますから、地方地方でお客様の感性が違うなんてことはまずない。テレビの力は大きいんです。ただ、それゆえの不自由さもあって、ライブなら今日来てるお客さんさえ不愉快でなければそれでいいけれど、テレビでは偏ったことが言えないんですね。もちろん見る方、聞く方だつてテレビとライブとは違い

ますよね。テレビではここは笑う所、トイレに行つてもいい所、と親切に教えてくれる。ところがライブでは、お客さん自身が自分の頭を回転させて聞く気がないと無理なんです。僕らも戦うし、お客さんもこちらが喋つてることを理解しようとして戦う。頭と頭で戦うスポーツのようなもので、寄席の後、ふと頭に感じる心地よい疲労感。これがライブの快感ですね。パブル

の頃は世の中、落ち着きがなくて、動けば動くほどお金になりましたが、これも痛し痒しですね。景気が悪くなり始めた頃から、お客さんが落ち着いてきた。仕事は減つたけれど、心から高座を楽しみにしてくれてるお客さんと向きあえるという充実感ね。ここ（グランシップ）も人を動かすだけでなく、その芯をつかまえることが大事なんじゃないでしょうかね。

萬よろず狂言

4/24（木）

チケット
発売中

PM6:30開場 PM7:00開演

グランシップ中ホール・大地

全席指定

S席 5,000円 A席 3,000円 B席 1,500円

番組

第一部

「萬はなし」レクチャー&デモンストレーション

野村万之丞

NHK大河ドラマ「利家とまつ」にまつわる日本の芸能について、また、狂言における先人たちの知恵や文化について、実演とともにわかりやすく解説。狂言の奥深さを知り、楽しむ、絶好のチャンス。

狂言「仏師」

すっぱ 野村万之丞 田舎者 野村与十郎

ある田舎者が仏像を手に入れようと都を行く。そこへすっぱ（詐欺師）が現れて、自分は仏師であるとでたらめをいう。田舎者は大金を払い、翌日注文した吉祥天女を受け取りに行くと、すっぱが面をつけ、仏像になりすましている。気づかぬ田舎者は、印相が気に入らないと仏師を呼び出す。そこですっぱは面を外してあわてて仏師に早変わり。何度も手直しを頼まれ、目まぐるしく交代するうちに…

第二部

狂言「子ほめ」

男 野村万之丞 何某 野村与十郎 タケ 山下浩一郎

酒好きで貧乏な男が、隠居の家に「ただの酒」があると聞き訪ねるが、隠居は「灘の酒」だろうと聞き違いを正し、人の酒を飲みたければお世辞のひとつでも言うよう諭す。男はお世辞が下手なため教えを請う。が、その物わりの悪さに隠居が「いい加減にしろ」と怒るその言葉さえ、お世辞と勘違いする始末。男はタケの家を訪ね、お酒でもいただこうと企むのだが…。

※都合により配役が変更になる場合もございます。

狂言用語解説

【間狂言】

狂言役者が能の中の登場人物の一人として演じる役。アイともいう。中入りの後、場つなぎとして登場する「語り間」（かたりあい）と、能の進行に直接関係する「会釈間」（あしらいあい）とがある。

【シテ】

主役。あるいは中心的な登場人物。【アド】シテの相手役。能のワキにあたる。

【披露】

「小習」以上の習物を初めて演じること。

【冠者】

本狂言に登場する役で、本来は元服した若者の意だが、狂言では広く従者の意味で使われる。

【すっぱ】

詐欺師、すり、たかりのこと。すっぱめくの語源。

【いちゃ】

若い娘。人妻。

【おこ】

うえとう。莊園領主。

【上頭】

男児。坊や。

【金法師】

大勢の助演者。

【立衆】

演技の終わり。落語というオチの部分。

八千草薫

夢のある世界で。

「舞台では自分とはまったく違う人間になっても、
 見る方はそんなに違和感がないと思うんです。
 ところがテレビは、役者のそのまゝが出てしまつ。
 それで映画はと
 やりがいも楽し
 よく書かれた作
 品は魅力がある、ということなんです」

お通。そして、蝶々夫人。

その人は、小さい頃、あるフランス人女優に似てるといわれたことがあるという。日本的な清楚な美しさで知られる女優さんではあるけれど、ずっと高い鼻、上品な華のある面差しは、確かに『蝶々夫人』で戦後最初の国際女優としてその扉を開いた人のものだ。それでもなお日本的な、という思いが拭えないのは、そのやわらかな物腰、佇まいのせいだろう。取材に答える際のわずかなためらいの“間”。それさえも、その人の日本的な美しさを奏でる一つ、という気がする。

□宝塚音楽学校には、女学校を途中で辞められて入学なさってますが、その頃すでに何らかの志を持っていたのですか。

「それがそんなものは全然なかったんです。ただ、戦争が終わって、夢のない時代でしたでしょう。そんなとき、新聞に『生徒募集』という文字を見つけたんです。それまで宝塚というのは知ってはいたけれど見たことがなくて、舞台そのものも母に連れられてたった一度、女子挺身隊のお芝居を見たことがあるだけでしたから。レビューのような華やかなものを見た経験はなかったんですね。それでも昔から家には歌劇の雑誌があつて、小学校の二、三年生頃から『綺麗だなあ』と思つて見てましたから、なんとなく夢のある世界という感じがしたんでしょう。それで衝動的に受けたくなつたんじゃないかしら。受験には(通つて)学校の制服で行つたぐらい、本当に軽い気持ちだったんです」

□八千草さんといいますと、『清楚な日本女性』『穏やかで優しい女性』というイメージがあります。

「そういう役を選んでゐるわけではないんです。おそらくそれは私が『宮本武蔵』でお通をやりましたね。あのイメージが強かつたんじゃないでしょうか。あれ以来、そういうイメージの役柄が多くなつた気がします。宝塚ではコミカルな役が多かつたですし、映画も当初はお茶目で活発なお嬢さんの役が結構あつたんです。ですから、お通のお話が来たときには、私にそんな大人っぽい役ができるのかしらと思つたぐらいなんですよ」

□そのお通と並んで、八千草さんのイメー

ジを決定づけた役柄といえは『蝶々夫人』のヒロイン役だと思えますが。あの映画はもちろんイタリア語で、しかもオペラ部分も口パクではないと聞いて驚きました。

「口だけではどうしても嘘になつてしまふんです。だから声を出す、というより声が出ちゃうんですよ。ちゃんと発音しないと口の形も嘘になつてしまいますから。芝居の台詞というのは、感情が繋がつていて覚えられま

まつたく知らないジャンルでしたから、なかなか覚えられないんですよ。イタリアに行くにも当時はプロペラ機ですから、それはそれは大変だったんです」

吉氏)から、中国語で『いい加減に』という意味で『ママ・フフ』という言葉があるけれど、少しそういう気持ちでのんびり構えて、いい意味で『いい加減に』になりなさいと言われたんです。それからだいたいラクになつたような気がしますけれど」

□戦後の日本では、海外との合作映画に出演された初めての女優さんだとお聞きしています。

「当時、そんな意識はまったくなかったですね。まず、イタリアへ送るテスト版として

□映画『雪国』で駒子の義妹役を演じられた際、文学の人間を映像に立ち上げるのは難しいとおっしゃってましたが、ご自身なりの役作りの手法みたいなものはありますか。

「昔はよく文芸作品といつて、文学から映画になつた作品がたくさんありましたよね。でも、結局は読むことしかないんですよ。そして、自分に少しずつ近づけていくという、そういう役づくりですね。ですから、『雪国』でもそうですけど、お通をやつているときも全集を何度も読みましたね」

エネルギーに満ちたエセル役。

□映画、テレビ、舞台と広く活躍されてますが、演技手としてそれらの違いをどう受けとめてらっしゃいますか。

「昔からよく言っているんですけど、舞台というのは、自分とはまったく違う人間になつても、見る方はそんなに違和感がないと思うんです。ところがテレビは、役者のそのままが出てしまふ。それで映画はというと、役とその人の持つてゐるものが上手く溶けあつて出る。そんな気がするんです。演技手としてどれが一番好きかといわれても、やりがいも楽しみもそれぞれで、一つ言えるこ



5月、グランシップ中ホール・大地で上演される『黄昏』の台本。トニー賞を受賞したアーネスト・トンプソンの戯曲で、原題は『On Golden Pond』。映画ではヘンリー・ジェーン・フォンダ親子が出演し、話題になった。

【やちぐさかおる】

女優。45年大阪私立プール女学院を中退して宝塚音楽学校へ入学。翌年、宝塚歌劇団入団。51年『宝塚夫人』で映画デビュー。以後、宝塚に在籍しながら『宮本武蔵』三部作ほか、多数の映画に出演。日伊合作映画『蝶々夫人』のヒロイン役で国際的人気を得る。57年宝塚を退団。映画監督の谷口千吉氏と結婚。その後、テレビ・舞台でも広く活躍出演作多数。65年『美しさと哀しみと』でアジア映画祭女優助演賞、77年『岸辺のアルバム』でテレビ大賞主演女優賞、86年菊田一夫賞、87年都民文化栄誉賞、91年NHK放送文化賞、95年文化庁長官表彰、97年紫綬褒章受賞。近年の出演作に映画『サトラレ』、NHK大河ドラマ『利家とまつ』、舞台『華岡青洲の妻』など。著書に『優しい時間』がある。'31年大阪府生まれ。



舞台一つとっても、これまでに数多くの役者と共演。「今をときめく木村拓哉さんも印象に残ってる方の一人ですね。約十年前、『花影の花 大石内蔵助の妻』で母子役で共演。「気持ちがかすこく伝わってきて、この人は伸びるだろうなあと思ったんです。だから、今、やっぱりね、と、(笑)」

とは、それが映画であれ、テレビであれ、舞台であれ、よく書かれた作品は魅力がある、ということなんです」

「映画やテレビにはない、舞台の醍醐味は何でしょう。」

「やはり続けて一気に演じられるということではないでしょうか。幕が開いたら、ずっとその世界にいられる。気持ちもずっと繋がっていますでしょう。昔、ビデオがなかった頃は、テレビドラマもそうだったんですよ。三〇分間休みなしで録ってしまう。だから間違えられないし、衣裳も替えなければならぬ。一つのスタジオに幾つかのセットがあつて、セットからセットへ走って演じるわけですから、とても緊張して。ただ、それだけ長い時間緊張していると、感情移入しやすいんですよ。その点、映画の場合は区切られますから、次のカットへ気持ちを継続させるのが難しい。昔は朝から支度して、待つて待つて、夕方によく撮影に呼ばれる、ということもあつて。その間、休めないんですよ。ほかのことを喋ったり、考えたりしたら、気持ちが崩れてしまう。だから、神経が凄くくたびちゃうんですよ。テレビも今は細かく切つてやりますでしょう。間違えればすぐにやり直しがききますから、それはそれでいいんでしょうけれどね。緊張感の中で気持ちを継続させて演じると、見る方も気持ちをそらせない。だから、舞台上の気持ちがよく伝わるということはあると思いますね」

「五月には、アーネスト・トンプソンの戯曲『黄昏』でグランシップにご出演とのことだ

が、杉浦直樹さんとは意外にも舞台初共演だそうですね。」

「テレビでは『岸辺のアルバム』などで一緒にしているのだけれど、なぜか舞台ではご縁がなかったんです。今回のノーマン役は、本当に杉浦さんにびつたりの役でしょう。私が演じるのは、ノーマンよりも十歳若い妻エセルなんですけれど、脚本を読んだら、小柄だけれども、信じられないくらいエネルギーに満ちている」と書かれているんです。私自身、そういう部分がないわけでもないんですが、これまでそういう役はあまりなかったんです。それでさらに読んでいくと、始終夫を元気づけたりして、じつとしていない。私は相手の芝居を受けてる役が多いんですけど、今回は自分からどんどん進んでいく役どころで、しかも登場人物は少なく、長い台詞もいっぱいあります。これは本当に健康で体力がないとできないなと。ですから、お稽古までに身体を鍛えなくちゃと思つています。身体が疲れてしまうといい芝居は絶対できないですからね」

「この作品のテーマである『老い』は、今まさに社会問題の一つでもあります。」

「私もそろそろそういう時期に近づいていきますから、夫ノーマンの気持ちも分かるような気がしますし、とても人ごとではないですね。また、この芝居では父と娘とのぎくしゃくとした関係とその行方も描かれていて、それらをととても身近なこととして見ていただきながら、いろんなことを考えていただければと思いますね」

G



チケット発売中

5/24[±]

テレビ静岡開局35周年記念

演劇 **黄昏** On Golden Pond

昼の部 PM1:00開場 PM2:00開演

夜の部 PM6:00開場 PM6:30開演

グランシップ 中ホール・大地

全席指定 1階席6,000円 2階席5,000円(各税込)

出演／杉浦直樹、八千草薫、浅野温子、成宮寛貴、伊藤正之、石田圭祐

■主催：財団法人 静岡県文化財団、テレビ静岡